

教育課程企画特別部会（第25回）（平成28年11月14日） 議事概要

- 意見募集や、関係団体からのヒアリングの中でも、特に小学校高学年の外国語の教科化に向けて、指導体制の充実の要望の声が上がっているが、「誰が教えるのか」ということについて、もう少し具体的に踏み込んで記述する必要があるのではないかと。外国語活動としての外国語教育の場合は、学級担任が中心になって成果を上げてきたということは大変評価されているところであるが、今回、教科化されるにあたって、現場で学級担任が教えることに対して、かなり不安がある。教員養成も追いついていないというふうを考えており、高学年で4技能を教えるということを自信を持ってやれるだろうか。学級担任が教えるということにこだわらずに、専科教員、あるいはそれと同等の機能を果たして、主として指導する教員を位置付ける必要があるというくらいの記述はしていただく必要があるのではないかと。70単位時間のマネジメント等もしっかりやっていかなくてはならないということも考えると、各学校に責任を持って担当してくださる方（それが専科教員である必要があるのかどうかということとは別に）を位置付けていただくことの必要性を記述しなければならない。都道府県・市町村が教員の人事、研修をする際に、そういう記述があると意識される。小学校免許と中学校英語の免許を持っている教員というのが各県とも数%いるが、例えばそういう方を各学校に1人ずつ配置するなど、具体的に教育委員会が人事を検討していく必要がある。
- 多様性と教育について、資料2の5ページのところで、ここでは性的多様性に着目して配慮するということが書かれていて、これはとても重要なことだと思う。日本の公教育の中では欠如している部分。LGBTに限らず、人種、宗教、障害者に対する多様性ということ、これらを、資料8で「その他」というふうに済ませてしまうことには疑義がある。教育の1つの大きな支柱として多様性を重視するという姿勢を打ち出していく必要があると思う。
- パブリックコメントや関係団体で一番注目されたのが、小学校高学年の外国語教科化。どういった先生が教えるのか、そして授業時間をどうするかという、これらのことをきちんとここに入れなければいけないと思う。
- 外国語の教科化について、教員の研修、誰が教えるかということが一番大きな問題になっているので、少し具体的に書く必要があると思う。加えて、海外研修の話がある。中高の先生は、それなりに海外研修を受ける機会がある。ところが、小学校の英語を教えるはずの先生たちは、海外研修はほとんどないという状況はまずいのではないかと。特に小学校の場合、単に英語を教えるということだけではなく、国際理解教育の一環として英語教育が入っているという部分が強いと思う。研修の中に小学校の先生たちの海外研修を入れる必要があるのではないかと。もう一つは、評価について。現在の中学校、高等学校での評価は、ほとんどが知識・技能に偏った評価になっているように思わ

れるが、そのままの形のものが入ってきた場合、問題である。思考力・判断力・表現力当という、コミュニケーションを中心としたいわゆるパフォーマンス評価に根付いたものでなければいけないと思う。

- 審議まとめの内容が難しいというお話をよく伺う。今回の改訂に関心が高い方でも、そのような感想を率直に頂くことがある。一方で、私の市内の中学校でも、校内研修が変わってきており、「アクティブ・ラーニング」をテーマに積極的に取り組んでいこうとしている。今回の改訂に向けた理念が確実に現場に届いて、実施されていくためにも、是非この答申の示し方の工夫というものをお願いしたい。意見聴取の結果の資料1-1にも、そういった取組としてパンフレットや説明会といったものがある。これらに加えて、答申の示し方そのものを、分かりやすいものをしていただければと思う。
- 共生社会の実現という理念の下では、障害のある人たちだけではなく、LGBTの方々やマイノリティーの宗教の方々にも配慮しなければならない。そういうことを含めてクロスカリキュラムで触れるように、踏み込んだ記述が必要ではないか。
- 「財政審資料への文部科学省の見解」に関する説明の中にもあったが、特別支援教育については、支援員がいるからいいということでは全くない。そのことをしっかりと明記する必要がある。
- 分かりやすさについては、キーワード集を作ったらどうか。例えばアクティブ・ラーニングというキーワードがあって、詳細は指導要領何ページ参照といったように、単語集を作ると、概念や定義が正しく伝わるのではないかと考える。というのは、ヒアリングをしていて、我々が当たり前だと思っていた単語すら「初めてだ」というようなことをおっしゃっている先生方もいらっしゃるもので、「資質能力」「PDCA」というレベルから入れ込んだキーワード集をお作りになれば、辞書的に使えてよいのではないか。
- 広報はYouTubeを利用するとよい。講演でいろいろなところへ行くと、Youtubeを見たという声を良く聞く。例えば単元ごと、総則だけといったように、長くせずに5分、3分ぐらいの説明をたくさん作って、一般の方も見れるような情報の出し方を工夫していくことが必要かと思う。
- 目標に準拠した評価が平成13年にきちんと明示化されたが、昭和55年から行われてきている観点別学習状況の評価がいまだに定着していないという現状がある。観点別学習状況評価を実現していくためには、根本的な授業の作り方そのものを変えていくような方向性を示さないと分からない。今でも、明治以来続いてきた1時間単位の授業で指導案が書かれている。このような指導案の中では、幾つかの観点をとともに示すということが見られなくなる。意識改革をするためにも、これまでの1時間単位の指導案ではなく、単元で全体像を見ていくんだというような考え方への転換をしていかないといけない。

- 小中学校では教科書に沿ってカリキュラムが作られており、目の前の児童生徒の、子供たちの実態に沿ったものとは言えないような形のカリキュラムになっている場合がある。一方、高校では、教員が異なるとカリキュラムが全く異なってしまって、その学校全体でどのような教育課程が行われているかも分からないような状況も見受けられる。指導要領で教育課程の基準を示す以上、その教育課程がどのように実施され、実現されているかという、教育課程自体の評価が大変重要になってくるというふうに考える。
- 教科横断的な視点に基づく資質・能力の育成は、言い出すと切りがないので、羅列的なものになるのではなくて、その文脈を示していただきたいと思う。
- 教員の研修については、それぞれの研修の中で全体像を示すという意識が大事。全体の中で、今やっている研修というのはどういう位置付けになるのかということそれぞれの研修の中で示していくことが重要。そうしないと、「これもやらないといけない、あれもやらないといけない」という負担感だけが先走って、つながりが分からないという事態になってしまう。
- 今後すすめられるであろう事例の示し方については、小さくパッケージ化したり、ハウツー形式にするとなかなか伝わっていかない。授業中に生徒を見ている、生徒の考え方の価値を吟味する、価値を位置付けるというようなことは指導と一体であり、こういうことは、部分を切り取って伝えてもなかなか伝わっていかない。単元全体の中で、流れの中で示していくことが重要。
- アクティブ・ラーニングについては、ほんの少しずつかもしれないが、徐々に進行しているのは間違いない。体験してみて、子供たちの変容を感じ取れる教員が多くなってきているように感じる。
- 小学校の外国語教育については、その後、中学校、高校にどのような変容をもたらせるのかということが、高校側からすると関心が高いところ。小学校でどのようなことが行われていて、中学校でどうなって、高校では何を教えるべきなのかということについて、少し書いていただけるとありがたい。
- ICT環境の整備については、1人1台のパソコンや、校内LANについては書かれてはいるが、黒板にプロジェクターを設置するといったような、提示装置も大きな役割を果たすのではないかと。例えば全ての教室にプロジェクターを設置することなど、そういったところの予算要求等も今後に向けてお願いできればと思う。
- 特別支援が必要な子供たちや、外国にルーツを持つ子供たちが今多く存在している。その中で、教員の役割と外部人材の役割というのは全く違う。一緒に行動してこそ初めて効果があらわれると感じている。高等学校等は予算要求の対象ではないということであったが、今後に向けて検討いただければと思う。

- 子供たちの資質能力を確実に育てていくということは、その評価の在り方と一緒に考えていくということがすごく大事。それがそれぞれの学校段階でとどまるものではなくて、幼児期から18歳まで連続して見ていくということが大切。そういう中に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目があると思う。こうした考え方をしっかり各学校、園に定着させていくためには、保護者の理解と協力というのはものすごく大事だと思う。周知のための方策の中に、家庭や地域へいかに理解してもらい、協力を得るのかという視点も入れていただければと思う。

- 答申に向けて記述の充実という観点からすると、学校評価とカリキュラム・マネジメントに関わる記述はもう少し丁寧に書く必要があるかなと思う。

- 小中一貫、あるいは義務教育学校、併設型の小学校、中学校についての議論がもう少しあってもよかったかと思う。小学校における英語の指導体制ということも、小中一貫連携という観点の中で考えると、知恵やアイデアがもっと出てくることもあるのではないかな。

- 各団体のヒアリングをさせていただいたが、4日間全て何らかの団体の中に教育長の団体があり、それぞれメッセージがあった。それへの応答ということも含めて、今回の学習指導要領の展開に、教育長の大きなリーダーシップが期待されているというメッセージがあってもいいのではないかなと思った。